

## やさしいカサ

山形県 長井小学校

3年 梅津 歩奈

学校から帰るとき、雨がふっていました。わたしは、雨がふっていたけれどカサがなかったので、あめにぬれないように、学童まで走っていくことにしました。

学校からいちばん近いしん号の十字路まで来たとき、しん号待ちをした車からスカートをはいた女の人が出てきて、

「だいじょうぶ？」

とわたしに声をかけてくれました。せが高くかみが長くて、花がらのスカートをはいた女の人は、知らない人だったけれど、やさしそうでした。わたしは、

「カサとカップがないから、走って学童に行くところです。」

と答えました。すると、女の人は車の中からカサを持ってきて、

「このカサ、かしてあげるから。つかいおわったら、すてていいからね。」

とそのカサをくれました。

学校の交通安全教室では、『いかのおすし』といって、知らない人についていけないやくそくがあったので、わたしは少しドキドキしながら、

「だいじょうぶです。」

と答えました。知らない人は、こわい人だと思っていたからです。でも、

「いいから、いいから。」

とやさしく言われたので、

「ありがとうございます。」

とおれいを言って、カサをもらいました。女の人は、わたしにカサをわたすと走ってもどり、車に乗って行ってしまいました。

わたしは、カサをさしました。雨で服がぬれかけていたけれど、カサをもらってからは服がぬれず、学童まで歩いていくことができました。カサがあってよかったな、と思いました。

大事な『いかのおすし』のやくそくはおぼえていたけれど、こわい人ばかりではなく、親切な人もいるんだと思いました。

学童についてから、先生に女の人のことを全部話しました。なんだかほっとしました。先生はニコニコ顔で、

「えー、歩奈ちゃん、すごくいい人に会ったんじゃない。このカサもらったの。すごいね。よかったね。いい人に助けてもらったね。」

と言われました。本当にそうだな、ラッキーだったなと思いました。そしてわたしは、女の人のことを思いうかべながら、車までカサなしで走っていったけれど、だいじょうぶだったのかなと思いました。すごい雨の日の一日でした。

わたしもこまっている人を見つけたら、あの女の人のようできたらいいなと思いました。自分でできることで、人を助けたいと思いました。